

理事長挨拶：知識の力と識別力

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、ご父母、ご関係の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。学位の取得という節目は、同時に新たなステージへの門出を意味します。皆さんにお祝いとエールを送るこの機会を、私自身とても楽しみにしていました。とりわけ、コロナ禍の中で、学生生活が一変した経験を持つ皆さんにとって、この節目には特別な意味があると思います。困難を乗り越え、学位を取得した皆さんに心からの敬意を表したいと思います。

さて、困難を乗り越えて皆さんは学位と共に何を得たでしょうか、知識でしょうか。確かに知識は力です。しかし、世の中にはあらゆる知識を持っているように見えても、それを自分の生活に応用できない人たちがいます。なぜかと考えたことはありますか？

知識はそれを行動に移して初めて知識となりうります。真の力は知識の応用にあります。学んだことを具体的な行動に移し、生活にポジティブな影響と変革を生み出すことが重要です。学んだことを実行する時、みなさんはその成果が目の前で展開していくのを見ましょう。知識をどのように行動に移せるか自問してみてください。あなたの人生は創造的なものになるでしょう。

つまり、知識だけでは十分ではないことを忘れないでください。その後の行動こそが私たちに真の力を与え、人生に有意義な変化をもたらすのです。自分自身の成長に責任を持ち、学んだことを実践し始めてください。それは、より良い世界を建設する力になります。

ただ、競争社会のルールの中に置かれている私たちは、厳しい現実にも直面します。機会 (opportunity) における平等しか提供されていないこと、いまだ人間の尊厳が侵害され続けていること、暴力や災害による苦しみ等。それでも、あなた方は学び続けることを身に着け、知識を力に変えて他者、世界のための力になってください。

英語で Discernment という言葉があります。「識別」という訳になりますが、これは、上智大学を設立した修道会イエズス会のキーワードの一つです。上智大学で学んだ皆さんにとっても、生きる上で重要な力です。識別力とは「高い判断能力」、「曖昧なものを把握し、理解できる性質」のことであります。なぜ識別力が重要かという、それは、私たちがさまざまな課題と機会に満ちた、選択肢にあふれる世界に生きているからです。私たちは自分にとっても他者にとっても何が良いのかを一緒に選択しなければなりません。深い意味では識別力とは私たちの人生の目的が何であるかを把握し理解する力です。

教皇フランシスコは識別力についてこのように語っています。「毎日、家で、街で、職場で、休日に、私たちは良いものを識別する可能性を持っています。そして、何が重要かを見分ける方法を知ることが重要です。人生の貴重な宝石を認識し、それらをガラクタと区別できるように自分自身を訓練することです。」人生において本当に貴重なものに気づき、それを探し、見つける方法を学ぶこと、それは、ガラクタの中から宝石を見つけること。これが識別力です。

聖書に「天の国」についての興味深いたとえ話があります。「天国は畑に隠された宝のようなものだ」という話です (マタイ 13 章 44 節)。ある人がそれを見つけると、喜びのあまり、持っていたものをすべて売り払って、その畑を買いました。また、もう一つのたとえ話で、「天国は、高価 (上質) な真珠を探す商人に似ている。とても価値のあるものを見つけたので、彼は出て行って、持っていたものをすべて売り払って、その真珠を買いました。」という話もあります (マタイ 13 章 45 節・

理事長祝辞

46 節)。

商人は貴重な真珠を他の真珠と見分ける方法を知っており、それを購入します。教皇フランシスコは言いました。「その計り知れない価値に気づいた彼は、すべてを売り払い、それを手に入れるためだけに自分の持ち物をすべて犠牲にします。これは私たちへの招待状です。しかし、人がすべてを放棄できるこの真珠は何ですか？」 聖書のたとえにおける真珠は神様との関係であり、イエスが教えた価値観です。皆さんはすべてを投じる価値のある真珠を持っていますか。探していますか。是非探し求めてください。ただ、ちっぽけな存在である私たちの人生における貴重な真珠を探し求め、見つけ、自分のものにすることが大切です。それによって私たちの選択の尺度が決まるのです。ソフィアで学んだあなたたちに望むことは「他人の中にある貴重なものも含め、人生の貴重なものを探し、見つける方法を身に着けること、その力を「他者のために、他者と共に」発揮することです。

この識別力に関する話は少し抽象的に聞こえるかもしれませんが、しかし、コロナ禍初期に人生の選択をしてこの大学に入った皆さんにとっても社会の混乱は記憶に新しいでしょう。この混乱を最小限に食い止めるべく世界が奮闘するさなか、ウクライナやガザが歴史的な戦禍に見舞われました。グローバル化が進む根底には、国際社会の人々が共生するという理念があると信じていましたが、その幻想は打ち砕かれました。いまだにわれわれ人間の社会は、人間の安全すら保障できないほど脆弱であることを目の当たりにしました。さらに、戦禍の様相に目を奪われている折に、能登半島地震が起きました。地球という唯一の選択肢の上で繁栄を築いてきた人類ではありますが、同じ人間は今もなお規模の異なるスケールで暴力的な攻撃にさらされているという事実を改めて思い知らされました。

この現実の中で何が大切かを常に考えながら、より大切なものを選び、自分の人生だけでなく、よりよい世界の創造の担い手になるために、知る努力を怠らず、識別力を発揮していただきたいと願っています。

新たなステージへの門出において一人一人の上に神様の祝福と皆様の豊かな将来のためにお祈りして祝辞とさせていただきます。 改めておめでとうございます。

2024年3月25日

学校法人上智学院理事長 サリ・アガスティン